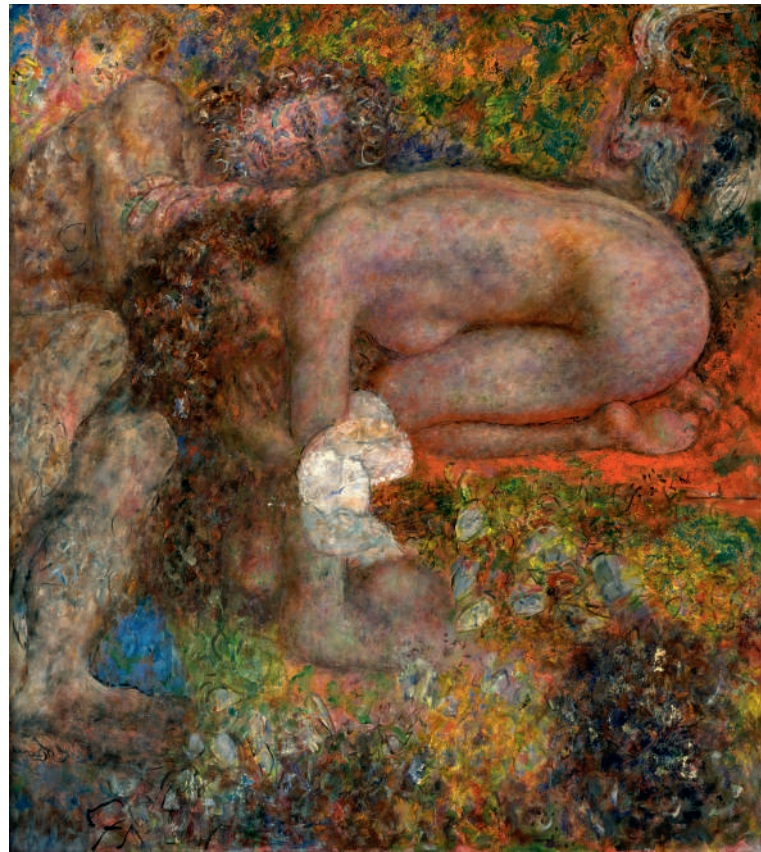


Colorful

開館20周年記念

宮本三郎 彩られた世界

2024年4月2日[火] — 9月1日[日]



①

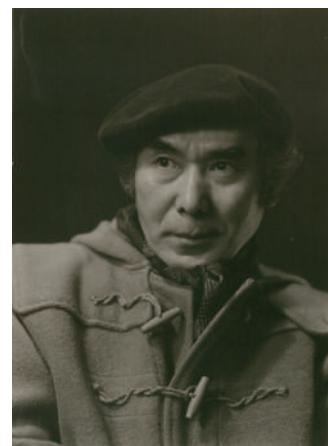
- 展覧会名 開館20周年記念 Colorful 一宮本三郎 彩られた世界
- 会 期 2024年4月2日(火)~9月1日(日)
- 休 館 日 毎週月曜日
ただし、4月29日(月・祝)、5月6日(月・振休)、7月15日(月・祝)、8月12日(月・振休)は開館、
4月30日(火)、5月7日(火)、7月16日(火)、8月13日(火)は休館
- 開館時間 10:00~18:00 入館は17:30まで
- 観 覧 料 一般200円(160円)、大高生150円(120円)、65歳以上、中小生100円(80円)
障害者100円(80円)
※小中高大学生の障害者は無料
※介助者(当該障害者1名につき1名)は無料
※()内は20名以上の団体料金
※世田谷区内在住・在学の小中学生は土日、祝休日、夏休み期間は無料

□宮本三郎について

宮本三郎(みやもと・さぶろう)は、1905年5月23日に現在の石川県小松市松崎町に生まれ、1935年7月より世田谷区奥沢にアトリエを構えた、昭和を代表する世田谷区ゆかりの洋画家です。

川端画学校で富永勝重、藤島武二、また個人的には安井曾太郎に指導を受け、戦前は二科展を中心に発表を行いながら、雑誌の挿絵や表紙絵の制作でも活躍。戦時中は従軍画家として藤田嗣治、小磯良平らとともにマレー半島、タイ、シンガポールなどに渡り《山下、パーシバル両司令官会見図》(1942年)をはじめ、数々の作戦記録画を制作しました。戦後は、熊谷守一、田村孝之介らと第二紀会を設立。生来の素描力を土台に、さまざまに画風を変えながらも、人物を主たるテーマとして制作、晩年は花と裸婦を主題にした豪華絢爛な絵画世界を構築します。

1974年10月13日、腸閉塞による心臓衰弱のため、69歳で他界。



撮影 藤原正 撮影年不詳

□展覧会概要

描写力に定評のあった洋画家・宮本三郎(1905-1974)は、色彩家(カラリスト)としての側面も併せ持っていました。最晩年に描かれた作品《生》では、裸婦の肌の表現にも赤、青、緑など何種もの色を差すなど、細やかな筆致と複雑な色づかいのなかに幻想的な世界を描いています。巧みな配色と構成はしかしその到達点ではなく、色彩への鋭敏な感覚は宮本の画業を通してあらわされているものでした。背景の説明的な描写を省略して1色の色面で表現したり、赤と緑、黄と青などの補色の関係にある色彩をひとつの画面のなかで積極的に用いたり、また、黒色をあえて画面の大部分に使用した作例なども、その特徴的な例といえるでしょう。本展では、これらの作品群を赤・青・黄・緑など色調ごとに展示して、宮本三郎の絵画における色彩の魅力に迫ります。

□会期中のイベント

ワークショップ、ギャラリートークなどのイベントは決定次第HPにてお知らせいたします。



2023年8月11日～13日開催

「サマー・ワークショップ2023 じぶんだけのお花かざりをつくる」



2023年8月20日開催

「コサージュづくりで感じる 宮本三郎の花」

開館 20 周年記念

Colorful

宮本三郎 彩られた世界

②



③



④



⑤



⑥



⑦



□各画像は広報用として提供しております。ご希望の際は広報担当までお問合せください。

①《生》1974年

②《(セーヌ河岸)》1952-53年頃

③《化粧室の裸婦》1965年

④《(ピアノ)》1945-48年頃

⑤《黄色バックの花》1961年頃

⑥《裸婦 (A)》1962年

⑦《女優》1961年

①～⑦ すべてカンヴァス、油彩

※() は作品名不詳のため仮題

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館

E-mail: miyamoto.annex@samuseum.gr.jp

TEL: 03-5483-3836